

<Campusmate-J における各科目区分ごとの合計修得単位数の表示について>

“成績照会”の“GPA を見る”からご確認ください。

Campusmate - J

HOME | 教務揭示 | シラバス | 履修・成績 | 学生支援 | 就職支援 | 履修カルテ

成績照会

GPAを確認してください。

プレビューで確認して下さい

科目一覧を見る GPAを見る 印刷する

全ての科目

科目の種類	取得単位	GPA
基幹教育科目		
専攻教育科目		
—以下詳細—		
基幹教育セミナー		
基幹教育セミナー		
課題発見科目		
課題発見科目		
学術アプローチ科目		
学術アプローチ科目		
言語文化科目		
言語文化科目		
文系ディシプリン科目		
文系ディシプリン科目		

【基幹教育科目】

- 第1外国語（英語）の「専門英語」（必要数2単位）については、「学術英語・上級」「学術英語・集中演習」の単位でもカウント可能。
- 理系ディシプリン科目の選択必修科目①と②は以下のいずれかの組み合わせで修得が必要。
また、いずれかの組み合わせ以外の余剰分は基幹教育科目の“その他”区分にのみカウント可能。

2単位 又は 4単位	【選択必修科目①】以下の科目は1年次に関講する。		
	〔 (2単位修得) →	入門微分積分Ⅰ(1)	入門微分積分Ⅱ(1)
	〔 (4単位修得) →	微分積分学Ⅰ(2)	微分積分学Ⅱ(2)
2単位 又は 4単位	【選択必修科目②】以下の科目は1年次に関講する。		
	〔 (2単位修得) →	入門線形代数Ⅰ(1)	入門線形代数Ⅱ(1)
	〔 (4単位修得) →	線形代数学Ⅰ(2)	線形代数学Ⅱ(2)

- 理系ディシプリン科目の選択必修科目③のうち、入学年度の所属コースの履修細目一覧に記載がない科目は、基幹教育科目の“その他”区分にのみカウント可能。（例）「生命の科学」など
- “その他”区分の最低修得単位数も必ず満たす必要がある。

具体的に基幹教育科目の“その他”区分にカウントできる単位は以下のとおり。

- *1 基幹教育科目の各科目区分の最低修得単位数の余剰分

（例：文系ディシプリン科目の最低修得数が4単位の場合で、6単位を修得している場合、余剰分の2単位を、この基幹教育科目の“その他”区分にカウントできる）

- *2 芸術工学部他コースのコース基礎科目・コース専門科目・コース演習科目(PBL)

（※他コースのコース基礎科目は、Campusmate-J 上では「(芸)専攻教育科目」と記載されます）

- *3 他学部の専攻教育科目

また、*2 と*3 でカウントして最低修得単位数を満たしている場合は、基幹教育科目の修得単位数が48単位以下でも、卒業要件のうち基幹教育科目の修得単位数は満たしたものとみなされる。

- 基幹教育科目の“その他”区分の以下のグレー網掛け部分の読み方について

（例：以下の画像の表示の場合）

基幹教育科目の“その他”区分にカウントできる科目のうち、高年次基幹教育科目以外の2単位が必要。（言い換えると、4単位全てを高年次基幹教育科目でカウントすることはできない。）

※単位数の内訳等は各入学年度の所属コースの記載を参照すること。

その他	4単位	(1年次) 2単位	言語文化科目、文系ディシプリン科目、理系ディシプリン科目、健康・スポーツ科目、総合科目から修得する。（※9）
			言語文化科目、文系ディシプリン科目、理系ディシプリン科目、健康・スポーツ科目、総合科目、高年次基幹教育科目から修得（※9）

（例：以上の画像の表示の場合、基幹教育科目“その他”区分にカウントできる科目のOK例・NG例）

① OK 例

- ・高年次基幹教育科目の最低修得単位数は「サイバー空間デザイン」（2単位）でカウント済み
- ・基幹教育科目“その他”区分として以下をカウント
高年次基幹教育科目最低修得単位数余剰分の「音楽・音響論」（2単位）
文系ディシプリン科目必最低修得単位数余剰分の「文化人類学入門」（2単位）

